

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 7 月 11 日

【評価実施概要】

事業所番号	0193700010		
法人名	社会福祉法人 幸清会		
事業所名	グループホームぬく杜の郷・しおさい		
所在地	虻田郡豊浦町字浜町 1 7 - 3 (電 話) 0142-83-7711		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北 2 条西 7 丁目 1 番地		
訪問調査日	平成20年5月26日	評価確定日	平成20年7月11日

【情報提供票より】（平成20年5月10日 事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年 9月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 14 人, 非常勤 4人, 常勤換算12.8人	

（2）建物概要

建物構造	木造防火サイディング 造り
	2階建ての 1～2 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	40,000円		その他の経費（月額）	15,000～20,000円	
敷金	○無				
保証金の有無 （入居一時金含む）	○無		有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり 1,200円				

（4）利用者の概要（5月26日現在）

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5	要介護2	7		
要介護3	2	要介護4	2		
要介護5	0	要支援2	2		
年齢	平均 83.8 歳	最低	79 歳	最高	88 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	豊浦町国民健康保険病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海と川と山に囲まれた豊かな環境に立地する事業所であり、木のぬくもりが充分感じられる住環境の事業所内からは、海を望む絶景が眺望できる。町営温泉や住宅も間近であり住民との距離も近い。併設のデイサービスとをつなぐスペースは地域交流スペースとなっており、食事が出来る喫茶として利用者や家族のほか、住民が利用できるなど、地域住民との交流空間も備えている。開設して1年を経っていない事業所であるが、法人内で複数のグループホームを運営しており、介護サービスのノウハウを持ち、経験職員も配置し、アットホームな中に質の高いサービス提供をしており、利用者の表情も明るい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4） 新設1年未満のホームであり、今回が最初の外部調査である。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 自己評価はユニットごとに全職員で行っており、評価項目に即したサービス向上の意識も高い。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 運営推進会議の位置づけも充分理解しており、適切に実施され、管理者だけではなく職員も参加して協議内容を実際のサービスに生かしている。また運営推進会議より提案された地域の会合参加を行うなど、その機能を積極的に生かす取り組みを行っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 利用者や家族の意見や要望を常に聞こうとする姿勢を持っている。面会に来られない家族にも週1回以上は電話連絡して近況を報告したり、希望を確認するなど家族の意見の運営への反映にも努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 地域の会合に管理者が参加しているほか、事業所内に地域交流スペースを設け、地域住民が食事でもできる喫茶コーナーを設置し、地域の方々が自然に訪れやすい環境を作っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設置法人において複数のグループホームを運営しており、法人としての理念を作り上げ、その実現に取り組んでいる。	○	法人理念とは別個に、当該事業所独自の理念を作ろうと職員間で協議が進行中である。その取り組みをすすめて独自理念を作り上げることが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が理念を記した携帯カードを所持し、日々確認するとともに、会議や日々の引継ぎ時に管理者より理念や目標達成の具現化について話をしており、職員の意識を高めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者が地域の会合や町内会活動に参加し、また地域の行事に利用者や職員が参加協力しており、適切なコミュニケーションが取れている。併設のデイサービスとをつなぐスペースは地域交流スペースとなっており、食事が出来る喫茶として利用者や家族のほか、住民が利用できるなど、地域住民との交流空間も備えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	新設事業所で、はじめての外部評価であるが、法人内で独自に外部評価基準に沿った評価活動を行うなど意識は高い。自己評価もユニットごとに全職員で話し合っている。評価を活用したサービス改善の取り組み意識も高い。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は保健所や地域包括支援センターなどの行政職員のほか、地域住民や家族も参加し、事業所側も管理者のみならず職員も参加し適切に行っている。会議で出された意見を活動にも取り入れている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の土地を貸与されていることもあり、日頃から運営状況については随時町に報告しており、助言も受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に来た家族への状況報告を常に行っているほか、管理者や担当者から常に電話による家族への情報提供を行っている。職員も家族が何を知りたいか考える意識を持っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者機関の設置状況を家族に説明しており、また、意見や苦情・相談などを投函できる「ふれあいボックス」を玄関に設置しているほか、面会時には職員が家族に気軽に意見を言えるような雰囲気作りをしたり、個別に状況報告をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事前に周知して影響が最小限になるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での研修機会があり、外部研修はできるだけ順番に数多くの職員が受講できるようにし、会議等で復命報告も行っている。	○	OJT以外に定期的に事業所の内部研修を行うまでには至っておらず、明確なシステムもない。今後は、毎月事業所内での職員研修を実施したり、その記録を整備することで、更なる職員の資質向上が期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡協議会に加盟して、管理者だけではなく職員全体で活動協力しており、他の事業所の同業者との情報交換を行い、サービス向上の取り組みにつなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に見学を行ってもらい、必ず職員や他の利用者とのふれあいの機会を作っている。お試し利用も可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できることを可能にするために、アセスメントの段階で過去の生活習慣や好みなどを把握して、したいこと・できることをともに行う関係作りに配慮した支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に聞き取りを行い、過去の生活習慣や好みを充分把握するようにアセスメントを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望を取り入れて、介護支援専門員が中心となり全職員で協議して介護計画を作成しており、内容も具体的である。	○	サービス計画書1の「利用者、家族の生活に対する意向」の記載内容が単なる生活不安や心配事しか書かれていないケースがある。その不安や心配を解消する為に、どのような意向を利用者・家族が持っているかが具体的に書かれていれば、より良いサービス計画に結びつく可能性があり、意向の引き出しと記載に努めるよう期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期目標の期間に沿って適切にサービス評価を行ない、記録も適切である。特に事業者側の評価だけではなく、利用者の意向・サービスに対する「良い、悪い」という気持ちも記録されている点は優れている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の自宅に訪問する支援を行うなど、利用者のニーズに即した支援活動を日常的に行っており、保険サービス以外にも多機能性を生かして対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所を利用前からの、かかりつけ医の受診を希望する利用者には通院支援を行うなど、利用者や家族の状況と希望に応じた受診支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り介護指針を整備しており、その内容は職員全員に周知し、利用契約の際に家族へ説明している。	○	今後は事業所内の定期研修の中で「看取り介護」の研修にも取り組んでいくことが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への声かけや対応は適切な言葉づかいで行っており、プライバシーにも充分配慮した対応を行っている。	○	面会者の記録表が玄関に置かれているが、一覧記入方式で外来者が誰でも見られる状態で、いつ誰が訪ねてきたのかが不特定多数の人にわかってしまう。面会者のプライバシーにも配慮して、記録表は個人ごとに記載してもらうなど、他の方に面会者の記録が目につく心配が求められる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望やペースにあわせて支援を行っている。今回外部評価調査日にも利用者の希望に応じた散歩などを行っていた。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳や、後片付けを利用者と職員がともに行い、食事中も利用者のペースに合わせた声かけや支援を自然に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	事業所側の都合で入浴時間や回数を決めておらず、利用者の希望や生活習慣に合わせて入浴支援をしている。	○	現在希望者がいないため夜間入浴は行っていないが、希望者がいる場合は、シフトを変更せねば対応できず、曜日や回数も限定されると職員が感じており、希望者がある場合の夜間入浴支援体制について事前に協議しておくことが望まれる。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活習慣を十分に把握して、残存機能や希望に配慮した役割が持てるように意欲を引き出すことを意識して支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に外出支援を行っている。希望に応じた散歩、近くにある町営の温泉施設などへの入浴支援も行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵はかけていない。適切な状況である。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練計画では年2回総合訓練を実施することとしている。開設間もない為、現在までは1回の実施である。	○	訓練計画の年2回の総合訓練は、ともに日中訓練を計画している。年に1度は夜間訓練または夜間想定訓練を実施するとともに、年2回の訓練だけで充分かという検討を行っていくよう期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設デイサービス事業所に栄養士を配置しており、献立作成の協力を得て栄養に配慮した献立となっているほか、適切に食事や水分の摂取状況の把握をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住環境は木のぬくもりにあふれ、家具等も家庭的な雰囲気で落ち着けるしつらえである。窓からの眺望も海に面しており素晴らしい環境である。居住空間として居心地良い環境となっている。	○	ユニット外に出るドアを開けるたびにチャイムが鳴り響く。調査時もチャイムが鳴っているが、そこに職員が確認に行くこともなく、耳障りな音に職員・利用者ともになれてしまっている。しかし不快で不必要な音は認知症の方の混乱要素にもなり、ユニットから出る際の確認は別の方法で行うなど、できる限り音に頼らない体制作りを心がけ、不必要なチャイムがなる時間を短縮するように心がけることが望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具が置かれ、それぞれの利用者の過去の生活習慣や趣味に応じた物品も置かれ、個性を活かした居心地のよい空間作りをしている。		

※  は、重点項目。